

審議会会議録

審議会等の名称	令和6年度 第3回瑞穂市子ども・子育て会議
開催日時	令和6年12月24日(火曜日) 13時30分～15時20分
開催場所	瑞穂市役所 巢南庁舎 2階 大会議室
議題	(1) 瑞穂市こども計画(素案)について
出席委員	秋山博委員、朝日美妃委員、河村岳昌委員(副会長)、清水恵子委員、高見順委員、田中佳織委員、豊田千晶委員、成瀬幸太郎委員、西垣吉之委員(会長)、矢野幸子委員、若園明裕委員、渡瀬広子委員
欠席委員	土岐祥子委員、矢崎齊委員、割石裕美子委員
公開区分	公開
傍聴人数	0人
審議の概要	<p>1 開会 委員15名のうち、12名が出席。出席者が過半数以上となり「瑞穂市附属機関設置条例」第8条の規定により会議が成立した。</p> <p>2 あいさつ 教育長よりあいさつ。</p> <p>3 議題 「瑞穂市審議会等の設置、運営等に関する要綱」第11条の規定により原則公開することを確認した。</p> <p>本日の傍聴者はなし</p> <p>会議録については要点筆記とし、発言した委員の氏名は実名表示しないことを確認した。</p> <p>事務局より「瑞穂市こども計画」(素案)について説明 第4章以降について主に意見を依頼</p> <p>(質疑・意見) 【A委員】 第4章の施策で新しく始めるものが、資料ではわかりにくく、施策に「新」と付けるとわかりやすいと思います。</p>

【会長】

そうですね、ほかにも実施時期が未定のものや可能かどうかが不明なものはここに掲載するのはどうかと思いますので、この計画の5年間に実施しますよということで固めていただきたいと思います。

【事務局】

新しい施策については「新」をつけて表記します。

【B委員】

「フリースペースの整備」の記載では、「だれもが利用できる」となっていますが、こども計画ですし、大人ばかりだと行きにくい場所になってしまうので、基本は「こども」限定にしてほしいです。

【副会長】

現在、市の関係各所の担当者との整備の場所をどのように使うのかの話合いを進めています。こういった場所の狙いをどこに置くかだと思います。

【B委員】意見のようにある程度こどもや若者の定義の範囲内のかたが利用するというので、こどもたちが遊べる所がなかなか少なくなってきたから、地域でもこういった居場所づくりみたいなのところができるみたいだなという記載でいいかと思います。

【C委員】

この計画の内容が本当に実現したら素晴らしいなと思います。「こどもまんなか公園づくり」では、「公園使用のルールの見直しを進めます」というのもあって良いと思います。こどもたちの意見が前回の会議でも小中学校ごとにはありましたが、要望に対して今はできないけど今後こうしていくとか返事がないと、意見を言ったけど何にもやってくれないになってしまうので、わたしたち大人は誠実に、こどもが自分たちの意見を言う機会と、その出した意見に対して丁寧に結果や報告とか、伝えていくということをしてもらえるとありがたいと思いました。

【会長】

各担当課がこのように割り振られたということで、これは担当課の責任において進めていくことが明示されたと思いますが、5年計画の中のどのあたりに実現可能なかというのが、何らかの形では示すことができると、より実効性のあるものになると思います。ただ、予算が絡んできますので、行政としては本当に悩ましいところだと思いますが、考えていただきたいと思います。

【D委員】

ファミリーサポートセンターは、瑞穂市ではNPO法人キッズスクエアみずほに業務委託をしていると思いますが、利用希望者が利用できないことがあるとか今

後の方向性が示されていないですが、どのように考えていますか。

【C委員】

ファミリーサポートセンター事業は1時間平日9時から17時までは700円です。ファミリーサポートセンター事業は基本的に地域でお互いの支え合いということで、高額な金額ではなく有償ボランティアの範囲の金額になっています。お金が払えなくて利用ができなかったという方はありません。ただ、ファミリーサポートセンターのことを知らなくて、そういったサービスが使えなくて困ったということはあるかもしれません。どうしても市の事業ということで、母子手帳の発行時や出産の届のときに案内をしてもらっていますが、私たちも提供会員の方の募集や、利用会員さんへの告知、周知の方法を尽くしてはいますが、なかなか全員にというのは難しいかもしれません。

【会長】

提供会員が増えないことは、どこの地域でも大きな問題で、全国的にも課題になっています。何かいい方法があれば、逆にそれを利用して瑞穂市発信ができるような部分でもありますね。

【C委員】

どうしても社会的に人手不足ですね。有償ボランティアだと定期的にお金が入ってくるわけではないので、雇用ではないですし、定期的な勤務や収入となると、通常の人に働きに行ってしまうと、どうしても人手不足になってしまいます。

提供会員さんが60、70代の方も多いため、仕事を退職されて地域のためにボランティアしてもいいなという方たちを中心に広げていきたいなと思っています。合計で24時間受けていただく研修がありますが、大変なテストを受けるわけではないので、孫育てにもお役に立つので、ぜひ地域の方に提供会員をやってみようという方がみえたら、情報を広げていただけるとありがたいなと思います。よろしくお願いします。

【副会長】

社会福祉協議会では、傾聴ボランティア養成講座とか、何かのサポーター養成講座などの目的を特化するようなそういった募集は、どのような養成講座に行っても思いはみんな一緒です。傾聴ボランティアの養成講座は応募がたくさんありました。例えばそういう活躍の場として、キッズスクエアさんが、こういった養成講座の会員の事業もあり、募集していますのでどうですかみたいな、横つながりでアピールしていくのも重要なと思いますので、人材を生かす地域づくりとして広げていけるといいと思いますので、事業者間での連携というところも推進していければいいかなと思います。

【A委員】

「みずほすくすくナビ」を確認しましたが、幼稚園や保育園の情報が圧倒的に足りないと思いました。親としては、まず募集要項を集めるところから大変で、幼稚園も保育園も、「いついつが期限です。この日に来てください。」と言われて、すぐに募集要項はもらえなくて、わざわざ行って、お話を聞いて、そこで要項をもらう流れです。時間と体力、精神的なダメージがあります。本当に働いている側としては、何時まで預かってもらえるのか、延長の保育料はいくらなのかとかで随分保育園が絞られてきます。園によって違うと思いますし、瑞穂市以外の保育園、幼稚園もたくさん通っている人がいると思いますので、まずはその通っている所だけでもいいので、他市の保育園も一緒に掲載していただけると、選択肢がある方が親としては考えやすいので、名前と URL だけでも情報が違うと思いますので、それをしていただけると嬉しいと感じました。よろしく申し上げます。

【会長】

第5章というタイトルが小さくて、もう少し大きくタイトルとして出ないといけないような気がしますのでご検討いただきたいです。

第5章ではこども家庭庁が提唱してきた新しい事業というのが出てきているため、今後の方向性の記載が、「当事業に取り組んでいる事例報告を確認し、開催体制を整備します」というような言葉がいくつか書いてありますが、このあたりに対する何かイメージ化できるようなものがここに書かれるといいかなという風に思いました。漠然としすぎています。親子関係形成支援事業の対象者は今親子関係が非常に複雑になっていて、そこを親子として育ちなおすようなプログラムというのは確かに必要ですが、対象者は誰でもよかったですでしょうか。課題を抱えている親子だけという風に自分の認識があったので、これも確認をしていただきたいと思います。

次から次へと新しい事業が出てきていますし、これからそれをどのように消化していくかという5年間は大変な時期に入るかと思っていますので、どうぞ最終的には整理をして、パブリックコメントにつないでいただきたいと思いました。

最後に今回の会議で、加筆修正したところを、パブリックコメントも始まるため、再度確認したいと思いますので、朱書で各員に送付いただきたいと思います。

【事務局】

加筆修正したものを1月上旬に送付することとし、次回の会議2月25日開催を案内

4 閉会

事務局 (担当課)	瑞穂市 健康福祉部 子ども支援課 TEL 058-322-3022 FAX 058-327-1566 e-mail kosien@city.mizuho.lg.jp
--------------	---